

卒業目標（コンピテンス）		卒業コンピテンスに対する達成レベル （衛生学）
Ⅲ. 医学および関連領域の知識と応用		
千葉大学医学部学生は、卒業時に 医学・医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。		
1	人体の構造と機能 1) 健康の定義について説明できる。	応用できる知識の習得が単位認定の要件である（Applied）
4	病因と病態 2) 健康と疾病との関係を説明できる。 3) 有害物質の健康影響について説明できる。 4) 環境発癌物質について説明できる。 5) 内分泌攪乱物質について説明できる。 6) 地球環境の変化，生態循環，生物濃縮と健康問題について説明できる。	
5 6	診断 治療、予防 7) 喫煙と疾病について説明できる。 8) シックハウス症候群について説明できる。 9) 副作用報告の意義について説明できる。 10) 有害事象報告の意義について説明できる。	
7	疫学，予防 11) 労働者の健康管理について説明できる。 12) 個人の生きがいと健康との関係を説明できる。 13) コミュニティと健康との関係を説明できる。 14) 都市環境と健康との関係を説明できる。 15) 都市の国際化と健康との関係を説明できる。	D 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である（Basic）
8	保健・医療・福祉制度 16) 社会と健康との関係を説明できる。 17) 産業保健の意義について説明できる。 18) 環境と適応について説明できる。 19) 主体環境系について説明できる。 20) 環境基準と環境影響評価について説明できる。 21) 公害と環境保全について説明できる。 22) 国民医療費の収支と将来予測について説明できる。 23) 国際医療の概要について説明できる。 24) 産業環境と健康影響について説明できる。 25) 厚生行政の概要を説明できる。 26) 医療保険と公費医療について説明できる。	

卒業目標（コンピテンス）		卒業コンピテンスに対する達成レベル （衛生学）	
IV. 診療の実践			
千葉大学医学部学生は、卒業時に 患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。			
8	医療文書を作成できる。 27) 診療諸記録の種類について説明できる。 28) 情報管理とプライバシー保護について説明できる。	D	基盤となる知識の修得が単位認定の要件である（Basic）
10	Evidence-based medicine（EBM）を実践できる。 29) 医療情報の利用方法について説明できる。		
11	Shared decision making（SDM）を実践できる。 30) 健康診断結果に基づく保健指導について説明できる。 31) 禁煙指導について説明できる。	E	
V. 社会と医療			
千葉大学医学部学生は、卒業時に 個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。			
2	保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。 32) 地域保健と医師の役割について説明できる。 33) 地域包括ケアと多職種連携について説明できる。	D	基盤となる知識の修得が単位認定の要件である（Basic）
3	患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。 34) 産業衛生的視点で労働現場を観察できる。 35) 環境測定計画を立案できる。 36) 環境測定の結果を解釈、評価できる。 37) 環境測定の結果を応用できる。		
5	個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。 38) 地域保健医療計画について説明できる。 39) プライマリーケアについて説明できる。 40) へき地医療について説明できる。		
6	広い視野から保健・医療・福祉の課題の改善に努めることができる。 41) 薬物に関する法令と医薬品の適正使用に関する事項を列挙できる。		